

安全第一！！

特許権者: 株式会社TOKIO建設

従来のくさび式緊結足場の構築では、支柱の間隔保持に用いる手摺部材では規格寸法不足による制約から建造物と足場との隙間が過大となる傾向が多い。そのため、足場から体を乗り出す等の、無理な姿勢での作業を強いられ、転落事故の要因となっていた。しかし、この間隔の調整を行う場合、従来型では、くさび式緊結式足場材以外の仮設部材を複数組み合わせて行わなければならなかった。従って、そのための使用部材の多様化、工程数の増加によって、敬遠されがちなのだ。この隙間を、容易に適正な足場に構築できる支柱間隔保持部材が必要であり、建設現場等の足場の構築・使用の改善による現場作業の効率化および安全の向上を図るべきと考えた。

本発明は、鋼管の側面に緊結材を複数取り付けることにより、支柱の多種類の間隔保持に対応できる。これは、容易に建造物と足場との間隔調整を行うことを可能にし、従来の作業手順、部材を全て継承使用ができるのだ。

現場での足場の使用時、建造物と足場との隙間が適正であることで、作業効率・安全性が著しく向上するのである。

patent review

ユーザー業界	活用アイデア
機械・加工 生活・文化	サイズを変化させられる植木等の展示台 ○本発明の複数の緊結材をもった部材という考え方を活用する
機械・加工 土木・建築	対象物と作業内容に最適な位置に設置できる足場部材 ○本発明の複数の緊結材をもった部材を利用した足場用部材を製造し供給できる
土木・建築 その他	安全な高所作業のための足場 ○本発明の足場を使うことで安全な現場作業が可能になる

market potential

建築現場はもとより、ビルメンテナンス、配管工事、塗装工事、あるいは舞台装置等の高所作業においては必ずといってよいほど足場が使われている。多くは仮設の足場であるから部材は用意された規格の大きさのものを適宜組み合わせて作られる。

本発明の手摺部材は、鋼管に多数の緊結材を取り付けて支柱にこれを差し込む構造なので支柱間隔を現場に合わせて変えることができるのが特長である。このような仕組みはあらゆる現場に対応可能であり、また、鋼管に限らず例えば十分な強度のある樹脂の一体成型品を使う等、素材に変化をもたせることによって、必ずしも大きな建築現場に限ることなく、例えばホビー用の簡易な足場、あるいは植木や展示物の台等、更には意匠を工夫することによりインテリア製品等、用途も自由に変化させることができる。

用語解説

くさび緊結式足場

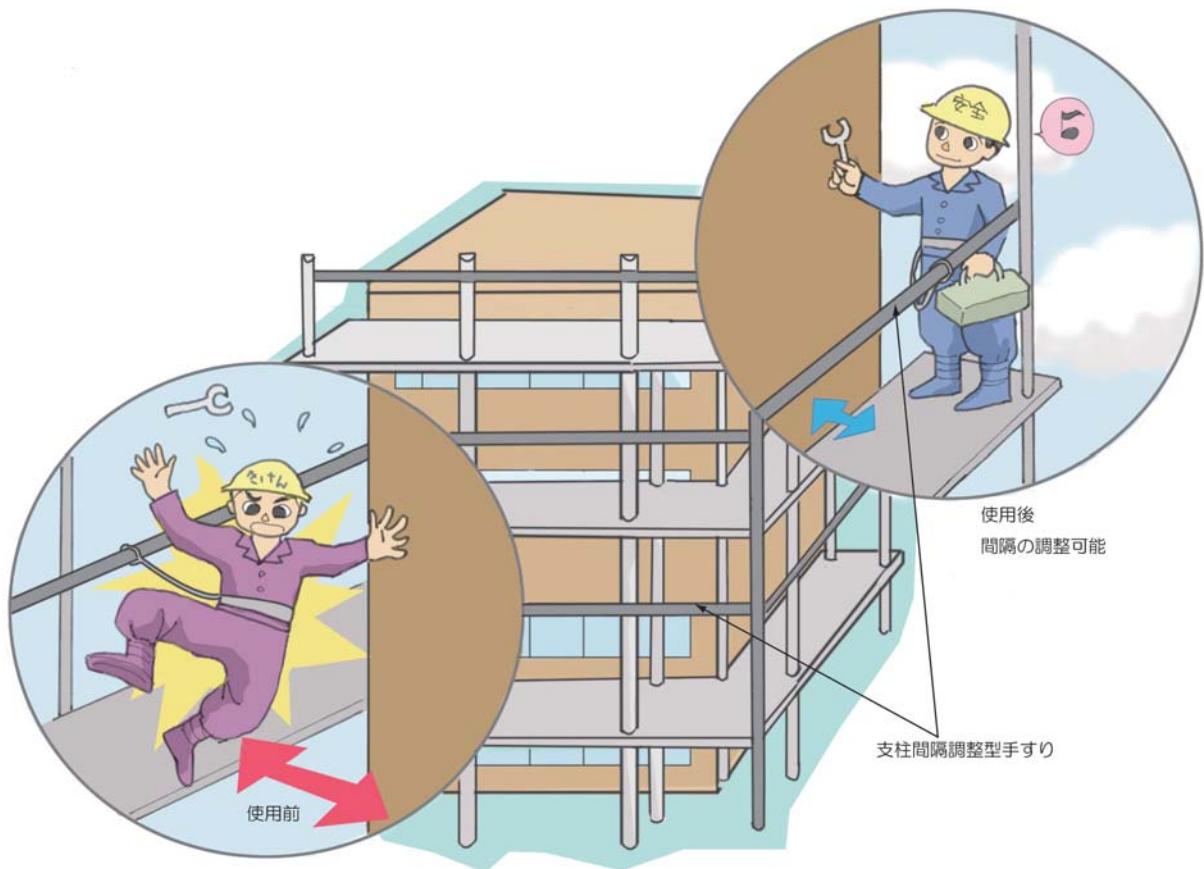
ダイサンが開発した足場の構造で、ピケ足場とも呼ばれる。ハンマーだけで組立分解ができるのが特長

支柱

物を支えるために用いる柱

緊結材

セパレーター、フォームタイ、コラムクランプ、各種金物・鉄線等で足場を組み立てるときに丸太を縛る物



特許情報

- ・権利存続期間：17年8ヶ月（平39.5.17）
- ・実施段階：試作段階
- ・技術導入時の技術指導：応相談
- ・ノウハウ提供：応相談
- ・供与条件：譲渡または許諾

○出願番号：特願2007-131201

○出願日/平19.5.17

○公開番号：特開2008-285865

○公開日/平20.11.27

○特許番号：特許4182532

○登録日/平20.9.12

参考情報

- ・特許流通アドバイザーによる推薦
- ・関連特許：なし
- ・IPC：E04G 5/14

皆様からのお問合わせを、お待ちしています。

■この特許の問合わせ先■

株式会社 T O K I O 建設
代表取締役
岩本 時男

〒780-8050
高知県高知市鴨部 1230-8
TEL:090-3188-7782 FAX:088-803-7601
E-mail:tokio@wine.ocn.ne.jp

もしくはお近くの特許流通アドバイザー
(P124をご覧下さい)にご連絡下さい。

特許流通データベース情報

・タイトル：支柱間隔調整型手摺

・ライセンス番号：L2009000254

<http://www.ryutu.inpit.go.jp/db/>
からご覧になれます。